

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470800455
法人名	有限会社 いせ
事業所名	グループホーム いせ
所在地 (電話番号)	伊勢市一之木4-11-31 (電 話) 0596-20-6565
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 10 月 22 日(月)

【情報提供票より】 (H19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 8人, 非常勤 7人, 常勤換算 12.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(円) <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(50,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,500 円				

(4) 利用者の概要(9 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2			5 名
要介護3	7 名	要介護4			1 名
要介護5	2 名	要支援2			名
年齢	平均 84 歳	最低 75 歳		最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神戸クリニック 山田赤十字病院 藤田歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、周辺に空き地も見られ、飲食店など事業所が連立した所で交通量の多い道路に面している。元々鉄筋コンクリート造りのマンションを1階は事務所、2階3階をグループホームとして改造したものである。玄関はじめ室内は全て和風調に改装され、ユニット入り口の畳スペースには針箱やミニの階段筆筒を置き、廊下壁には利用者家族から寄贈された日本画や利用者の作品、写真等が飾られている。またテーブルには季節の花が生けてある等家庭的で居心地良く落着いて暮らせる場になっている。また職員には介護経験豊富な者が多く、事業所の理念「利用者が可能な限り自立して互いに助け合い社会の中で当り前の生活をする事」を合言葉に熱心な支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題「物干し竿の位置が高い」は改善されていた。「市の事業を積極的に働きかけ受託されることを望む」は前向きに検討出来るが、こちらから積極的な働きかけには至っていない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は評価の意義、目的を良く理解している。今回の自己評価についても職員全員で確認し合いサービスの質の向上に繋げる努力をしている。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 平成18年7月に第1回を開催し既に6回目を実施している。会議内容も当初、事業所側の説明、報告等から、回を重ねる毎に提案、意見交換等へと展開しつつある。引続き地域の理解や支援、率直な意見を貰うなど貴重な機関として充実と効果を期待する。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員の異動は少なく家族から何でも言ってもらえる関係が出来ていることもあり今までに不満、苦情等はない。家族からの提案については職員全員で状況を検討し納得のいく対応をしている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣保育所と交流慰問や盆踊りなど出来るだけ地域行事に参加し地域の人々との交流に努めている。今後は事業所の行事にも地域住民に参加呼び掛けをして行く方向で企画している。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者がその能力に応じ可能な限り自立して、互いに助け合い、社会と繋がった当り前の生活への支援。職員は常に利用者の心に寄り添ったケアの実践。など5項目にまとめ、玄関、事務所、ダイニングルーム等に体裁よく掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は全職員に良く浸透している。職員の言葉づかい、自立に向けた支援、利用者との対話の中で実践状況が確認できた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に出席したり、地域行事(餅つき、獅子舞、盆踊り等)にも出来るだけ参加して地域の人々との交流に努めている。	○	管理者及び職員は、グループホームの行事(各種慰問、茶話会など)に近隣のお年寄りにも声かけし気軽に立ち寄りて貰えるような計画をしている。地域住民との交流、地域で共に暮らす意味からも実行を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は、自己評価、外部評価の意義目的を良く理解している。今回の自己評価も全職員で取り組み、また前回の外部評価の要改善項目についても全職員で検討、改善しサービスの質の向上に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年(18年)7月に第1回を開催し既に6回目を開催している。最初は事業所や地域密着型サービス内容の説明、報告を行い、その後漸次回数を重ね充実を図りつつある。	○	会議の開催は、おおむね2ヶ月に1回とされている。運営推進会議のなかで、予め次回の日程、主なテーマを決めておかれるのも良いかと思われる。また回を重ねながら、単に報告や情報交換に留まらず、出席者から率直な意見を貰いサービスの質の向上に活かしていける事を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	要介護認定更新申請や認定調査の機会を利用して、事業所の現況報告及び情報の入手に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	通常は家族の訪問時に本人の状況を報告している。面会が遠のいた時や必要時は電話によることもある。3ヶ月毎にホーム便りを発行、担当者が手紙を添えている。また金銭管理についても厳格に管理し報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員の異動は少なく家族から何でも言ってもらえる関係が出来ている。今までに家族からの不満、苦情はない。家族からの提案については職員全員で状況を検討し納得のいく対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は開設当初からの勤務、職員の7割が3年以上。4年以上の勤務者も10名あり利用者にとって親しみと安心出来る支援がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修の内容によって職員に受講要請をする。また受講希望のある研修には勤務体制を調整している。受講後は報告を行い他の職員と共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市介護保険サービス事業連絡会、県グループホーム連絡協議会等へ積極的に職員が交代で参加し同業者との交流、情報交換を通じサービスの質の向上に生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に先だち、事業所の見学だけでなく管理者や職員が自宅訪問を重ね本人と馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の主体はあくまでも本人である事を重視し職員は常に利用者一人ひとりの人格を尊重し本人のできる事やりたい事を、さりげなく支援している。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、入居時のアセスメント及び利用者との日常会話、しぐさの中で希望や意向の把握につとめている。	○	アセスメントシート(センター方式)を少し改刷し職員全員が活用し易く(記録、内容の共有)する方向で考えている。今後のこまめな記録と活用を期待する。
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いを聴き、職員全員で意見交換をしながら個別に介護計画を作成し家族にも確認を貰っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3ヶ月毎に、状況に応じて随時見直すことにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、故郷訪問、カラオケ喫茶等、利用者の時々要望に職員は対応している。利用者(3名)の希望で一泊旅行にも同行した事もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週(各ユニット交互)契約医師の往診を受け健康管理に努めていて何時でも気軽に相談・指導を得る事ができる。また本人及び家族の希望による主治医との関係も大切にしている。救急時や歯科医療に対する体制も出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に、重度化した場合及び見取りに関する考え方も書面で提示。家族、医師との相談の上可能な限りサポートしていく旨の申し合わせをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いには全職員に周知し的確に扱われている。また職員の利用者への対応や言葉づかいも非常に穏やかである。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、日々利用者との会話の中で本人が行って見たい所、やりたいことを聞き出し(地域の催しへの見学参加、花見、散歩、買い物、カラオケ喫茶へ出かけるなど)出来るだけ希望にそったその人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は主に生協から取り寄せている(時には利用者と買いに出る)。調理、配膳、後片付けも利用者と職員が一緒になって行なっている。食事でも会話を交え楽しく行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日何時でも入浴が可能である。調査当日も昼食前に入浴中の利用者、風呂上りの利用者も見られた。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や経験を活かしその人の力を発揮して貰えるような支援をしている。食事作りや草花の手入れ、俳句を短冊に清書する者。またカラオケ喫茶、ミサ(クリスチャン)やマッサージに出かける者も有る。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物は日常的に、時には地域の催しや花見など出来るだけ希望に応じた外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は日中玄関や居室に鍵をかけることの弊害を良く理解しており両ユニット共、鍵をかけないケアを実践している。1階事務所は稀に施錠する事があるが、職員は常にユニット内で利用者の外出しそうな様子を察知し一緒に出かけるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年消防署の協力を得て職員のみで消火、避難訓練を行なった。今年も11月の地域防災訓練に参加する予定である。	○	地域の防災訓練場所に、事業所の用地を提供して地域住民と共に訓練できるよう提案している。建物は鉄筋コンクリート造り3層構造であり避難通路も限られている。昼夜を問わず様々な事態を想定して慌てずに避難誘導が出来るような対策、訓練が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせ1名はミキサー食にしているが、摂取量、栄養バランス、水分補給ともに十分に配慮、管理、支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	構造は鉄筋コンクリートであるが玄関はじめ室内は和風装備。家具、調度品、装飾品も家庭的で所々に季節の花を生けるなど落ち着いて居心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のエアコン、ベッドは備付だが、使い慣れたタンス、衣装ケース、机などを持ち込み趣味用品、俳句、習字、絵等で装飾するなど本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。中には位牌を置かれている居室もある。		